

図書館通信 — 29 —

1974. 11

“郷土資料”について

若林 淳之

日本にあるさまざまな、しかも多岐で膨大な資料は、そのすべてが何らかの意味で郷土資料であるといっている。しかしそれらのすべてを郷土資料とは言わないで、郷土資料というあいまいではあるが、ある種の概念範疇が成立しているものであるとすると、それは大正年代から昭和の7～8年ころまでの間に高まりを示した、郷土誌(史)研究ブームのなかで、つくりあげられた概念範疇のようなものが、何んとなく今日まで継承されているように思われるのであって、実際には学問研究のレベルで、あるいは行政レベルなどで研究され、調査された、地域研究に関する業績のすべてが、いわゆる“郷土資料”といわれるべきものであって、それは今日いわれている学際的な研究を、約半世紀以前から先どりしつづけて来たものであると言っていい。

このような郷土資料は、戦後日本の政治・経済・社会・文化・教育などの著しい発展にともなって、その価値や研究の重要性が再評価され一種のブームが巻き起こされている。つまり教育の分野では社会科教育の発展にともない、また政治・経済の分野にあっては、例えば地域開発など政策立案の基底資料として、さらに文化の領域にあっては、主観的意図の相違はあっても、日本人や日本文化の定量、定性分析を試みる基礎資料として不可欠なものと考えられるなどのすべてが合体される中で、歴史ブーム、地方史研究ブームという形をとりつつ、年々貴重な資料の積み重かさねがおこなわれ、また既成資料の複製も活発におこなわれているのである。

郷土研究や地域研究は、奈良時代にみる諸国の『風土記』編さんにはじまる古い伝統をもつものであるが、それが組織的に本格化するのには、矢張り江戸時代末期の事であった。この地方でも、内山真竜の※『遠江風土記伝』桑原黙齋の※『駿河記』秋山富南の※『伊豆誌』などをはじめ※『駿河志料』※『駿河新風土記』などの大著がありさらにこれにつづく地誌類は多く、また大須賀鬼卯の『東海道人物誌』も、江戸時代化政期の駿遠豆三国の文化の状況に問題を提起している。

明治以降になると、明治10年代静岡県が各町村に命じた町村誌の編纂の成果(未刊)も注目されるが、なんといっても大正から昭和初年にかけての※『静岡県史』(1・2・3巻複製版あり)※『

も く じ

“郷土資料”について 若林淳之……………	1
静岡大学工学部五十年史 紹介 大庭政三……………	2
私のすすめたい本・27 富士山—その生成と自然の謎 黒田 直……………	3
利用統計——昭和48年度…	4
静岡市町村史誌目録……………	5
増加図書統計 昭和47～48年度……………	6
雑誌受入種類数 昭和48年度……………	6
教官著作寄贈図書—本館— ……………	6
おしらせ(本館)……………	6
人事異動……………	6

静岡県史料』(1・2・3・4・5巻複製版あり)をはじめ※『静岡市史』(複製版あり)以下の各郡誌※(『南豆風土誌』※『駿東郡誌』※『富士郡誌』※『庵原郡誌』※『安倍郡誌』※『志太郡誌』※『榛原郡誌』※『小笠郡誌』※『磐田郡誌』※『引佐郡誌』)などがあり、これらの中には複製されたものもあって、研究者の需要にこたえているし、さらには『藤枝町誌』『大宮町誌』など町村レベルで出版されたものが多い。

これらの戦前の動きをうけて、戦後は市町村制が町村合併など新たな課題に当面したり、また地域開発という地域の変ぼうを目のあたり見ることともなった現状から、新しい視野と視点をもった市町村史(誌)の編さんがすすめられ※『浜松市史』(資料編を含む)※『磐田市誌』『掛川市誌』『島田市史』※『藤枝市史』※『焼津市誌』※『静岡市史』(近代編)※『清水市史資料』※『富士市史』※『吉原市史』※『富士宮市史』※『沼津市誌』※『三島市誌』※『熱海市史』※『伊東市史』それに※『佐久間町史』※『岡部町史』などすぐれた市町村史が刊行され、さらには『静岡県の百年』※『静岡県教育史』など地域史から教育・産業等々個別分野のすぐれた資料も刊行され蓄積されている。また忘れられないものは登呂遺跡の発掘にはじまる登呂遺跡、天王山遺跡、三池平古墳、蜷塚遺蹟など数々の報告書も原始古代における地域の動向を知るものであった。

しかし、このような動きの中にあつて、ともすると従来の地域研究に関する課題、関心にかたよりがあつて、資料蒐集の欠陥も少くなかつた。地震・水害などにかかわる被害関係資料の見落としなどそれであつて、遠州灘沖の地震の予測されるなかで、地震学者は歴史学者との協力を欠いたまま、災害予測をたててみたり、また静岡県民の一つの関心である富士山噴火の可能性にかかわつて、最も近い室永噴火関係資料の記録はもとより視覚資料の発掘の不十分な事は、郷土資料の整備の一環として学際的に考える分野が多数残されている。※『地方史静岡』の発刊と発展はそうした点を意識的に複比することが望まれている。

いっぽう郷土研究、地域研究が、日本の社会や歴史研究に対応するものであることは当然であるが、対応するという事から来る地域の個性を没却していく傾向もなしとはしないが、そうした動きや常識に抵抗し、地域の個性や特殊性を得宅するなかで、日本全体の動きにかかわる通念の変更を迫る郷土資料の開拓もゆるやかではあるが進行している。—郷土資料という大きな課題を述べるには、余りにも紙数制約が多すぎ、その感想の域を

静岡大学工学部五十年史紹介

大庭政三

大正11年に創立された浜松高等工業学校が高き理想のもと、自由啓発の伝統に育かれつゝ、幾多の変遷を辿つて、昭和24年に静岡大学工学部へとすゝみ、更に年輪を刻んで既に50年の歳月を重ねた。この間に世に送つた卒業生の数も、併設の教員養成所及び短期大学部を含めれば、優に1万3千名を越している。同窓を中心に母校の五十周年を期して、二・三の記念事業を行うことになり、その一環として五十年史の編纂が計画されたのである。然し何分にも長年月に渉ることであり、而も膨大な事蹟の集積を如何にまとめるかに苦慮して居つた処、今までに数多くの大学のこの種校史編輯を手掛けてきた財界評論新社から話があり、結局吾々と学校側が資料を提供し、同社教育調査会校史編纂室が編輯に当ることになった。爾來二年半に亘つて準備し、昨年秋に『静岡大学五十年史』として発刊されるに至つたのである。

流石に専門家の手になつたものだけに、歴大な資料も各年代に応じて過不足なく配分整理され、第1篇は浜松高工から静大工学部への変遷の記録、第2篇は学生生活の華浜工校友会と工学部課外活動、第3篇は浜松工業会と多岐多彩を誇る卒業生の社会活動と区分して、時代の推移地域社会との関連を背景に、浜松高工以来の輝かしい歴史と、伝統に培われた独特の校風人間形成の過程を軸として、親しめる思想史、読める年史として記述されており、800余頁の大冊で格調己から高いものがある。たゞ惜むらくは、全体的な骨格の把握客観的な事実の描写に急なあまり、多感な青春の日を此所に過し、若き日の歡喜と悲哀をこの時に凝集した者にとっては、いさゝか淡白平板で、何か一つ欠けた飽き足りなさを覚えるとの嘆である。

茲に浜松工業会は機関紙佐鳴50号を特輯して、昭和初年1回から卒業生、当時在職の教官を年次別に総動員し、その時々々の在学中の憶出を語らせて、歴史を生きた学生生活の息吹がその儘表出されるものを企て、いる。これは11月中旬に発行されるが、工学部50年の歩みはこの両者を合せ読むことによって、完全に浮彫りされ身近なものとなるであろう。

(浜松工業会名譽理事長 工業短期大学部主事)

~~~~~  
脱けだし得なかつたことは残念に思いつつ。—

(教育学部教授 社会科教育)

(※は本館所蔵)

## 「富士山—その生成と自然の謎」

森下 晶著 184頁 49年初版 講談社現代新書 330円

黒田 直

本書は、北斎が目でとらえ、広重が心でとらえた富士、万葉の歌にでてくる雪の富士や火を吹く富士で始まり、ついに自然の企てによって地上から姿を消す富士で終わる。いまから6億年前より古いころに始まった日本の大地の歴史における興味あるひとこまとして、富士山の生涯が描かれている。数千万年前に生きていたウニの化石に詳しい著者は、あとがきで「——身分不相応な私が、本書を書くことになった——」と謙遜するが、富士山は6章184頁にわたってわかりやすく説かれている。

標高3776mを誇る富士山は、玄武岩の溶岩と火山灰を含むコークス状の火山放出物が交互に重なる日本一高く、美しい成層円錐火山だが、短期間で一気に成長したのではない。富士山は、数万年前に噴火した古富士山と数10万年前に噴火した独立の火山小御岳の上にそびえているのだ。大きな火山の寿命は数10万年というから、古富士山から数えて数万年の富士山はできたても同然だろう。山腹には100を越す寄生火山と火口があり、その半数以上は北北西—南南東の方向に並んでいる。この方向は富士山地下深部の張力割れ目の方向らしく、マグマは古くからこの割れ目を通して地表へ噴出したようだ。

富士山の最近の噴火は、1707年（宝永4年）12月16日午前10時ころから翌年元日の夜まで激しく続いた宝永火口の爆発である。この噴火は前日来しきりにあった地震のあとで起こった。大小3つの火口が標高2300～3150mの富士山南東山腹で北北西—南南東の方向に珠数つなぎに並ぶ宝永火口は、いまはなにごとにもなかったかのように静まりかえっているが、約13億tにのぼる軽石、玄武岩の岩片、火山灰を放出した。熱い放出物は、折からの冬の強い西風に流されて、富士山東麓とその東の村むらの耕地や家に降りそそいだ。須走で積った放出物の厚さは3mを越えた。江戸でも火山灰が降った。耕地や家を失った富士山東麓の人びとは、他の地へ移住することもままならず、辛酸をなめつくした。この地の完全復興には36年が費やされた。宝永火口すぐ東の砂ぼしりから標高1500m付近にかけた富士山南東山腹には、現在まだ

自然植生の回復を許さない乾燥した火山荒原が広がっている。

富士山の噴火はその後300年ほどない。噴火は再び起こるだろうか。著者は、富士山の過去の噴火間隔から、この300年を一時的休止期とみなし、富士山は再び噴火するだろうと考えている（富士山は1083年に噴火をやめたが、1511年からまた間けつ的に噴火し始めた）。どのような噴火が起こるだろうか。著者は言う。噴火は、山腹で突然起こり（富士山の新しい噴火は山頂火口でなく、山腹で起こっている）、休止期が長いので宝永噴火のような大爆発を伴うかもしれない。このような噴火が西風の強い冬に始まったらどうだろうか。今日、文明は18世紀初期とは比較にならないくらい発達している。富士山の噴火は、それだけ人災を招き、再び富士山東方の地に有形、無形の大損害をもたらすのではなかろうか。

噴火が起これば富士山の姿は変わるだろう。噴火はなくても、富士山の姿は自然の企てにしたがって不断に変わっていく。西山腹に千年前から切れこんだ大沢崩の浸蝕は、その著しい現われである。非常に若い日本の最高峰も長期間の浸蝕でついに無に帰する。——とまれ富士山は美しい。読者は本書をとおして、富士山の生涯を知るならば、きつといままでも増して富士山の美しさに愛着を覚えるに違いない。私たちの周囲では、人工が益まさきわまり、自然が失われていくように見える。「徒然草」など古典を著わした私たちの祖先たちは、自然の企てを直観的にとらえるのに敏で、自然の美とはかなさをよく知っていた。自然保護は、一人びとりが祖先たちにならって、だが科学的に自然の企てを知ることによって成就するものと思う。

「富士の自然—朝霧高原への招待」 近田文弘  
編集 49年刊 日本自然保護協会・静岡県  
（手軽なガイドブック）

「富士山—自然の謎を解く」 木沢 綏ほか著  
44年初版 NHKブックス （地形、地質、気象、生物についていろいろ書いてある）

「怒る富士、上・下」 新田次郎著  
49年初版 文芸春秋社 （宝永噴火がかもした諸事件を史実に基づいて平易に語る労作）

「富士山」 富士山総合学術調査報告書  
46年刊 富士急行株式会社・東京  
（大部の専門書、本館にあり）  
（理学部助教授 地学）



## 利 用 統 計

—昭和48年度—

## 1) 利用者別統計

| 区 分   | 奉仕対称数<br>(人) | 入館者数<br>(人)     | 閱 覧               |                  | 貸 出             |                 |                |                  | 文 献 複 写         |               | 相互貸借<br>(冊)  |
|-------|--------------|-----------------|-------------------|------------------|-----------------|-----------------|----------------|------------------|-----------------|---------------|--------------|
|       |              |                 | 出納(冊)             | 指定(冊)            | 開架(冊)           | 出納(冊)           | 合計(冊)          | 館内(件)            | 館外(件)           |               |              |
| 学 部   | 人 文          | 323<br>(6.9%)   | 5,057<br>(8.1%)   | 1,203<br>(35.1%) | 109<br>(4.6%)   | 467<br>(12.4%)  | 327<br>(41.3%) | 903<br>(13.0%)   | 429<br>(22.7%)  | 10<br>(9.2%)  | 9<br>(50.0%) |
|       | 教 育          | 847<br>(18.1%)  | 13,507<br>(21.5%) | 1,375<br>(40.1%) | 351<br>(14.9%)  | 977<br>(25.9%)  | 254<br>(32.1%) | 1,582<br>(22.9%) | 694<br>(36.8%)  | 67<br>(61.5%) | 5<br>(27.8%) |
|       | 理            | 272<br>(5.8%)   | 3,250<br>(5.2%)   | 85<br>(2.5%)     | 173<br>(7.3%)   | 360<br>(9.5%)   | 41<br>(5.2%)   | 574<br>(8.3%)    | 82<br>(4.3%)    | 8<br>(7.3%)   | 0<br>(0.0%)  |
|       | 農            | 254<br>(5.4%)   | 1,046<br>(1.7%)   | 14<br>(0.4%)     | 36<br>(1.5%)    | 84<br>(2.2%)    | 0<br>(0.0%)    | 120<br>(1.7%)    | 48<br>(2.5%)    | 4<br>(3.7%)   | 2<br>(11.1%) |
|       | 人 文          | 380<br>(8.1%)   | 7,638<br>(12.2%)  | 240<br>(7.1%)    | 212<br>(9.0%)   | 364<br>(9.6%)   | 34<br>(4.3%)   | 610<br>(8.8%)    | 94<br>(5.0%)    | 0<br>(0.0%)   | 0<br>(0.0%)  |
|       | 教 育          | 925<br>(19.8%)  | 14,088<br>(22.4%) | 248<br>(7.3%)    | 665<br>(28.2%)  | 784<br>(20.7%)  | 90<br>(11.4%)  | 1,539<br>(22.2%) | 270<br>(14.3%)  | 0<br>(0.0%)   | 2<br>(11.1%) |
|       | 理            | 285<br>(6.1%)   | 5,107<br>(8.1%)   | 97<br>(2.8%)     | 242<br>(10.3%)  | 238<br>(6.3%)   | 15<br>(1.9%)   | 495<br>(7.1%)    | 67<br>(3.5%)    | 0<br>(0.0%)   | 0<br>(0.0%)  |
|       | 農            | 298<br>(6.4%)   | 2,914<br>(4.6%)   | 27<br>(0.8%)     | 109<br>(4.6%)   | 113<br>(3.0%)   | 5<br>(0.6%)    | 227<br>(3.3%)    | 45<br>(2.4%)    | 0<br>(0.0%)   | 0<br>(0.0%)  |
| 生 部   | 工            | 899<br>(19.4%)  | 9,694<br>(15.5%)  | 87<br>(2.5%)     | 444<br>(18.9%)  | 367<br>(9.7%)   | 13<br>(1.6%)   | 824<br>(11.9%)   | 130<br>(6.7%)   | 0<br>(0.0%)   | 0<br>(0.0%)  |
|       | 大 学 院 生 等    | 185<br>(4.0%)   | 458<br>(0.7%)     | 49<br>(1.4%)     | 17<br>(0.7%)    | 25<br>(0.7%)    | 13<br>(1.6%)   | 55<br>(0.8%)     | 34<br>(1.8%)    | 20<br>(18.3%) | 0<br>(0.0%)  |
|       | 小 計          | 4,668<br>(100%) | 62,759<br>(100%)  | 3,425<br>(100%)  | 2,358<br>(100%) | 3,779<br>(100%) | 792<br>(100%)  | 6,929<br>(100%)  | 1,893<br>(100%) | 109<br>(100%) | 18<br>(100%) |
|       | 教 官          | —               | 961               | —                | 1               | 144             | 4,578          | 4,723            | 600             | 343           | 31           |
| 職 員   | 職 員          | —               | 104               | —                | 1               | 115             | 341            | 457              | 42              | 28            | 1            |
|       | 研 究 室        | —               | —                 | —                | —               | —               | 3,567          | 3,567            | —               | —             | —            |
|       | 小 計          | —               | 1,065             | —                | 2               | 259             | 8,486          | 8,747            | 642             | 371           | 32           |
| 学 外 者 | —            | 246             | 135               | —                | —               | —               | —              | 129              | —               | —             |              |
| 合 計   | —            | 64,070          | 3,560             | 2,360            | 4,038           | 9,278           | 15,676         | 2,664            | 480             | 50            |              |

## 2) 分類別統計

| 区 分    | 閱 覧               |                  |                  |                 |                   | 貸 出              |                  |                  |                  |
|--------|-------------------|------------------|------------------|-----------------|-------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
|        | 指定(冊)             | 参考(冊)            | 開架(冊)            | 出納(冊)           | 合計(冊)             | 指定(冊)            | 開架(冊)            | 出納(冊)            | 合計(冊)            |
| 0 (総記) | 167<br>(0.7%)     | 1,178<br>(11.6%) | 580<br>(2.1%)    | 920<br>(25.8%)  | 2,845<br>(4.5%)   | 18<br>(0.8%)     | 127<br>(3.1%)    | 541<br>(5.8%)    | 686<br>(4.4%)    |
| 1 (哲学) | 422<br>(1.9%)     | 313<br>(3.1%)    | 1,398<br>(5.1%)  | 208<br>(5.8%)   | 2,341<br>(3.7%)   | 63<br>(2.7%)     | 255<br>(6.3%)    | 567<br>(6.1%)    | 885<br>(5.6%)    |
| 2 (歴史) | 1,802<br>(8.0%)   | 976<br>(9.6%)    | 2,677<br>(9.7%)  | 501<br>(14.1%)  | 5,956<br>(9.3%)   | 114<br>(4.8%)    | 272<br>(6.7%)    | 548<br>(5.9%)    | 934<br>(6.0%)    |
| 3 (社会) | 2,637<br>(11.8%)  | 1,122<br>(11.0%) | 6,471<br>(23.5%) | 816<br>(22.9%)  | 11,046<br>(17.3%) | 363<br>(15.4%)   | 832<br>(20.6%)   | 1,699<br>(18.3%) | 2,894<br>(18.5%) |
| 4 (自然) | 12,910<br>(57.7%) | 2,773<br>(27.2%) | 7,171<br>(26.0%) | 136<br>(3.8%)   | 22,990<br>(36.1%) | 1,188<br>(50.3%) | 986<br>(24.4%)   | 2,516<br>(27.1%) | 4,690<br>(30.0%) |
| 5 (工学) | 1,180<br>(5.3%)   | 86<br>(0.8%)     | 504<br>(1.8%)    | 17<br>(0.5%)    | 1,787<br>(2.8%)   | 131<br>(5.6%)    | 92<br>(2.3%)     | 465<br>(5.0%)    | 688<br>(4.4%)    |
| 6 (産業) | 188<br>(0.8%)     | 224<br>(2.2%)    | 276<br>(1.0%)    | 66<br>(1.9%)    | 754<br>(1.2%)     | 26<br>(1.1%)     | 45<br>(1.1%)     | 422<br>(4.5%)    | 493<br>(3.1%)    |
| 7 (芸術) | 560<br>(2.5%)     | 245<br>(2.4%)    | 2,036<br>(7.4%)  | 93<br>(2.6%)    | 2,934<br>(4.6%)   | 55<br>(2.3%)     | 232<br>(5.7%)    | 362<br>(3.9%)    | 649<br>(4.1%)    |
| 8 (語学) | 651<br>(2.9%)     | 2,612<br>(25.5%) | 464<br>(1.7%)    | 115<br>(3.2%)   | 3,842<br>(6.0%)   | 133<br>(5.6%)    | 109<br>(2.7%)    | 702<br>(7.6%)    | 944<br>(6.0%)    |
| 9 (文学) | 1,877<br>(8.4%)   | 670<br>(6.6%)    | 6,008<br>(21.7%) | 688<br>(19.4%)  | 9,243<br>(14.5%)  | 269<br>(11.4%)   | 1,088<br>(27.1%) | 1,456<br>(15.8%) | 2,813<br>(17.9%) |
| 合 計    | 22,394<br>(100%)  | 10,199<br>(100%) | 27,585<br>(100%) | 3,560<br>(100%) | 63,738<br>(100%)  | 2,360<br>(100%)  | 4,038<br>(100%)  | 9,278<br>(100%)  | 15,676<br>(100%) |

# 静岡市町村史誌目録

(戦後県下市町村刊行した史誌資料で、前掲「郷土資料について」にあげられたものは除く)

- 新居町史 史料編 1—3 新居町 昭和35—47  
 熱海 熱海市 昭和28  
 熱海市史年表 熱海市 昭和29  
 熱海町誌 熱海市 昭和38  
 網代村誌 熱海市 昭和39  
 浜北市史資料(近世) 1 浜北市教育委員会 昭和47  
 ※浜松発展史 浜松市 昭和29  
 ※浜松発展史 続 浜松市 昭和30  
 浜松の50年 1911—1961 浜松市 昭和36  
 静岡県駿東郡原町誌 資料篇 その2 原町 昭和33  
 原町誌研究中間報告書 原町 昭和34  
 ※静岡県原町誌 原町教育委員会 昭和38  
 初倉村誌 初倉村 昭和40  
 細江のあゆみ 細江町史料調査会 昭和31—37  
 細江町の百年 細江町 昭和44  
 袋井市誌編纂資料 2.3.5 袋井市 昭和41—44  
 ※袋井市史資料 1 袋井市 昭和47  
 藤枝市史資料 1 藤枝市史編纂委員会 昭和38  
 富士市の研究 4 富士市教育委員会 昭和39  
 ※富士川町史 富士川町 昭和37  
 ※富士川町史 追補 富士川町 昭和43  
 目でみる富士宮の歴史 富士宮市 昭和48  
 村のあゆみ 庵原村 昭和29  
 庵原村史 近代篇 庵原村教育委員会 昭和36  
 磐田郡池田村誌 池田村 昭和28  
 町の歴史 稲取町教育委員会 昭和33  
 私たちの郷土伊東 伊東市教育委員会 昭和35  
 10年のあゆみ 伊東市教育委員会 昭和36  
 磐田のあゆみ 磐田市教育委員会 昭和34  
 磐田百年 磐田市 昭和43  
 ※蒲原町史 蒲原町史編纂委員会 昭和43  
 川根町明治百年 川根町 昭和43  
 磐田市誌シリーズ 1 磐田市誌編纂委員会 昭和48  
 菊川町史 菊川町 昭和40  
 北浜村誌資料 2 北浜村誌編纂委員会 昭和29  
 ※光明村誌 光明村誌編纂委員会 昭和34  
 舞阪町史 1—3 舞阪町史研究会 昭和45—47  
 松崎町史年表 松崎町 昭和46  
 三ヶ日町史資料 2—11 三ヶ日町 昭和27—44  
 萑山町史資料集 1—3 萑山町 昭和43  
 長泉郷土誌 長泉町教育委員会 昭和40  
 中狩野村史 中狩野村 昭和28  
 沼津のあゆみ 沼津市教育委員会 昭和30  
 沼津市誌 沼津市教育委員会 昭和30  
 ※小川町誌 小川町誌編纂委員会 昭和29  
 ※大浜町誌 大浜町誌編纂委員会 昭和41  
 大仁町誌編纂資料 1—3 大仁町教育委員会 昭和44—47  
 ※岡部町史 岡部町 昭和45  
 興津町誌 興津町 昭和26  
 御前崎町十年史 御前崎町 昭和40  
 大富村史 大富村史刊行会 昭和29  
 ※大津村誌 大津村誌編纂委員会 昭和31  
 六合村誌 六合村 昭和30  
 ※相良誌稿 上・下 相良史蹟調査会 昭和29  
 ※編年相良町史 相良町教育委員会 昭和41  
 芝川町誌 芝川町誌編纂委員会 昭和48  
 清水市郷土年表 清水市 昭和27  
 清水市のあゆみ 清水市 昭和34  
 ※清水市史 中 清水市 昭和39  
 島田市史資料 1—6 島田市史編纂委員会 昭和37—45  
 静岡のあゆみ 静岡市教育研究所 昭和31  
 ※静岡 市制80周年記念写真集 静岡市 昭和44  
 ※静岡市史 近世史料 1 静岡市 昭和49  
 静岡市史編纂目録 1—7 静岡市 昭和41  
 静岡市史研究紀要 1—5 静岡市 昭和36—39  
 静岡市史資料 1—20 静岡市 昭和41  
 静岡市史資料 1—24 静岡市 昭和40  
 静岡市史年表 静岡市 昭和35  
 ※静岡の歴史と文化 改訂版 静岡市教育委員会 昭和38  
 修善寺町史料 2・4—6 修善寺町教育委員会 昭和43(5のみ本館あり)  
 ※袖師町誌 袖師町 昭和36  
 ※鷹岡町の史蹟と伝説 鷹岡町教育委員会 昭和32  
 ※高洲村政誌 高洲村 昭和29  
 ※清らかなる山河 新玉川村誌 玉川村 昭和43  
 ※徳山村政誌 徳山村 昭和31  
 ※有度郷土誌 有度村教育委員会 昭和30  
 多賀村誌 熱海市 昭和40  
 吉田町年代表 吉田町郷土部 昭和34  
 榛原郡吉田町資料 3 吉田町史編纂委員会 昭和41  
 吉原市史研究資料 1—2 吉原市教育委員会 昭和28—29

## 増加図書統計

## 昭和47年度

|      | 本館     |       |        | 浜松分館  |       |       | 農学部分館 |     |       |
|------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
|      | 和漢書    | 洋書    | 計      | 和漢書   | 洋書    | 計     | 和漢書   | 洋書  | 計     |
| 0 総記 | 795    | 372   | 1,167  | 113   | 0     | 113   | 3     | 0   | 3     |
| 1 哲学 | 781    | 498   | 1,279  | 21    | 2     | 23    | 2     | 0   | 2     |
| 2 歴史 | 1,893  | 269   | 2,162  | 17    | 0     | 17    | 12    | 2   | 14    |
| 3 社会 | 4,611  | 1,277 | 5,888  | 32    | 0     | 32    | 52    | 9   | 61    |
| 4 自然 | 1,287  | 1,303 | 2,590  | 616   | 1,463 | 2,079 | 226   | 170 | 396   |
| 5 工学 | 468    | 68    | 536    | 1,025 | 732   | 1,757 | 103   | 34  | 137   |
| 6 産業 | 593    | 65    | 658    | 4     | 0     | 4     | 388   | 92  | 480   |
| 7 芸術 | 339    | 51    | 390    | 10    | 3     | 13    | 8     | 1   | 9     |
| 8 語学 | 458    | 321   | 779    | 26    | 2     | 28    | 2     | 0   | 2     |
| 9 文学 | 1,221  | 1,231 | 2,452  | 3     | 0     | 3     | 6     | 0   | 6     |
| 計    | 12,446 | 5,455 | 17,901 | 1,867 | 2,202 | 4,069 | 802   | 308 | 1,110 |

## 昭和48年度

|      | 本館     |       |        | 浜松分館  |       |       |
|------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|
|      | 和漢書    | 洋書    | 計      | 和漢書   | 洋書    | 計     |
| 0 総記 | 630    | 233   | 863    | 99    | 3     | 102   |
| 1 哲学 | 814    | 351   | 1,165  | 21    | 0     | 21    |
| 2 歴史 | 1,861  | 169   | 2,030  | 14    | 1     | 15    |
| 3 社会 | 4,680  | 768   | 5,448  | 31    | 1     | 32    |
| 4 自然 | 1,319  | 1,733 | 3,052  | 678   | 1,335 | 2,013 |
| 5 工学 | 735    | 326   | 1,061  | 857   | 530   | 1,387 |
| 6 産業 | 1,022  | 135   | 1,157  | 4     | 0     | 4     |
| 7 芸術 | 442    | 55    | 497    | 35    | 0     | 35    |
| 8 語学 | 573    | 331   | 904    | 18    | 2     | 20    |
| 9 文学 | 1,361  | 1,413 | 2,774  | 7     | 0     | 7     |
| 計    | 13,437 | 5,514 | 18,951 | 1,764 | 1,872 | 3,636 |

## 雑誌受入種類数 —昭和48年度—

|       | 本館    | 浜松分館  |
|-------|-------|-------|
| 総受入数  | 5,537 | 1,137 |
| 購入    | 和     | 941   |
|       | 洋     | 825   |
| 寄贈・交換 | 和     | 2,613 |
|       | 洋     | 1,158 |

## ■教官著作寄贈図書 —本館—

町田 英夫 (農学部)

さし木のすべて

(誠文堂新光社 昭和49)

渡辺 安夫 (教養部)

ハーゲルと現代 宮本富士雄編著

(理想社 昭和49)

☞(前頁より)

※由比町誌 由比町誌編纂委員会 昭和36

雄踏町史 資料編 1-5 雄踏町教育委員会

昭和44-48 (4・5のみ本館あり)

(※印は本館所蔵)

誌面の関係で上記の様に範囲を限定したものにしました。個人著作、戦前出版物、各主題別(遺蹟発掘報告書目録等)は今後、機会をみて作成したいと思います。

## おしらせ (本館)

## (1)冬期休暇中の長期図書貸出

イ 貸出冊数 4冊まで(指定図書は2冊まで)

ロ 貸出日 12月5日(土)~7日(土)

ハ 申込期間 11月30日(土)まで

ニ 申込要領 ○窓口③番にある申込用紙を用いて下さい。

○申込用紙には必ず指導教官またはこれに代るべき教官の捺印を受けて下さい。

ホ 返却期間 1月11日(土)~14日(火)

※ なお、長期貸出準備のため、12月2日(月)~7日(土)の間、通常の貸出を停止します。

## (2) 休館

12月23日(月)~1月4日(土)

## (3) 延長開館

● 1月17日(金)~2月26日(水)

● 月~金 9:30~19:30

土 9:30~16:00

## ■人事異動(本館) ※配置換 ①春山俊夫

(49-8-15付、参考調査←整理) ②岩本 攻

(49-10-1付、整理←総務) ③千葉營幸

(49-7-16付、総務←人文学部・会計)

④渡辺厚治(49-10-1付、総務←教養・学生)

※新採用 川原卯吉(49-9-1付)

静岡大学附属図書館報「図書館通信」  
発行所 静岡大学附属図書館  
印刷所 文化洞

第5巻第5号(通巻29号)1974年11月11日発行  
静岡市大谷836 TEL (37) 1171・1188  
静岡市南138 TEL (45) 6260